

平成25年度 長野県諏訪清陵高等学校 学校関係者評価

*評価の目安 C:自己評価が不十分 ~ A:自己評価が十分なされた

教育目標	取組	評価の観点	評価	自己評価についての意見等
生徒の学力向上 (重点目標)	①生徒の家庭学習時間の増加 ②教員の指導力向上と授業改善 ③教科における課題の明確化と解決に向けた計画的な取組 ④SSH、生徒による授業評価、自反会(土曜講座)、授業シラバスの活用	①生徒の学力が向上したか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上に取り組んだ結果の成果と課題が正しく評価されている。 ・先生方の指導で学力が向上していると感じるが、底支えだけではなく全体を通して向上のための努力が必要だと感じる。 ・センター試験等の成績が他の高校と比べ期待どおりではない。 ・(学力向上全体を通して) やや具体性に欠けて、どう行ったのか、どう改善をしたのかよく分からない。
		②生徒の満足する授業、知的探究心を喚起する授業ができたか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善に向けての創意工夫などがなされる一方、多様なニーズへの対応等、課題が評価されている。
		③家庭学習時間の増加が図られたか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習時間については、量的・質的な問題もあるが、課題も多く、正しく評価されている。 ・入学後1~2ヶ月の家庭学習の習慣化がとても大切な気がする。清陵での学習スタイルに一番意欲的に取り組める時期だと思う。 ・家庭学習は中学から習慣づけて行くことが必要。附属中の生徒は6年間の長い学校生活になるので、早い段階から身に付くような態勢がとればよい。
		④生徒による授業評価に基く授業改善がなされたか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価が授業改善に生かされるなどの一方、クラブ活動との両立は、個人差はあるが、課題である。 ・クラブ活動との両立がむずかしく、学習事項の積み残しがみられ定着に不安を持つ生徒が多いというのは実情だろうと思う。この辺りの生徒へのサポートなり手立てが更に加わると生徒も助かるのではないかと。(週単位の小テスト、教材・問題集の提出など。) ・先生方は十分努力されていたと思う。
		⑤各教科の課題が解決されたか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科で、課題に向けて改善が図られている。達成度4でもいい様にも思われるが。 ・先生方が少しでもよい方向にと模索されていると感じた。
		⑥自反会の目的に貢献できたか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・取組の成果が見られている。ポイントを絞った指導の具体策への取組を。
		⑦シラバスの整備と活用が図られたか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「さらに活用につながるシラバスの整備が課題」など、正しく評価されている。
主体的な進路選択と進路実現の支援	①合同HR、講演会等による進路意識の向上と進路研究への支援 ②実力テストや校外模試の分析と事後指導 ③生徒・保護者、職員への進路情報の共有化 ④指導の継続及び改善のための進路係と各学年間の連携 ⑤社会的・職業的に自立した人間の育成を目指すキャリア教育の推進	①生徒の進路意識を向上させ主体的な進路選択ができるような取組ができたか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年とも様々な取組を行い、成果が見られている。 ・先生方の努力がうかがえる。 ・自らの進路について積極的な姿勢になっていくのに大切なことは、自己肯定感の向上と自信、学校への誇り、仲間意識の向上などであり、これはすなわち高校生活がしっかりできることである。
		②生徒の自己目標実現のための指導に十分取り組めたか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科で、課題、添削指導、補習など基礎・基本を培う指導が行われている。 ・結果が出たように思われる。
		③実力テストや校外模試が有効に活用されたか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・結果の分析・検討や活用、学習の計画的継続に役立っている。課題もあるが、評価は十分。
		④進路情報が生徒・保護者、職員に適切に伝えられたか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・進路情報は幅広く、適切に行われている。
		⑤進路係、各学年間の連携が十分に図られたか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学年間の情報交換や連携が深められている。
		①国際的な科学技術系人材を育成するためのカリキュラム等の研究開発を行う(課題探究・科学セミナー等)	A	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な取組が行われ、更に「SSH評価検討委員会」を発足させ学校全体で取り組むなど改善が図られている。 ・SSHの一層の充実を期待する。 ・(SSH全体を通して) 成果が具体的に示されており、学校全体の取組になるように改善されたところがよい。更に今後の課題は何か明確に示していただけると取組が一層すばらしいものになると思う。
②融合型授業の指導法を研究する(SSH情報・科学英語入門の設置)	A	<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究のテーマを生徒から提出させ、議論させることから始めることは、生徒たちの主体的意識啓発にもなり評価できる。「わくわく科学教室」もよい。 ・SSHの様々な取組が、生徒の興味関心を高め、学習意欲の向上に役立っていると思う。 		
③大学、企業との連携による講座開講(地元先端技術産業の見学および研修実施)	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「清陵サイエンスフォーラム21」など各行事の満足度は高く、評価できる。英語を活用したの発表、コミュニケーションも満足度は高い。 		
④「清陵サイエンスフォーラム21」の開催	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「清陵サイエンスフォーラム21」など各行事の満足度は高く、評価できる。英語を活用したの発表、コミュニケーションも満足度は高い。 		
⑤科学系クラブ活動の振興	A	<ul style="list-style-type: none"> ・連携講座を通して、生徒の科学的態度や興味関心を高めるよう取り組んだことは、評価できる。 		
⑥国際性を育む(科学英語入門・海外科学セミナーの実施)	A	<ul style="list-style-type: none"> ・連携講座を通して、生徒の科学的態度や興味関心を高めるよう取り組んだことは、評価できる。 		

中高一貫教育に向けた学校全体の取組	①6年間を見通した授業の在り方の明確化 ②生徒募集に向けた広報活動の充実 ③入学者選抜の実施	①中学と高校を有機的に結びつける教育内容になっているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の教科書や副教材の選定を6年間を見通した視点から行ったことは評価できる。中学の授業に高校の視点を入れる方策もお願いしたい。 ・学校側も初めてのことで大変な作業だと思うが、生徒のために努力をお願いしたい。 ・中学と高校の授業観のちがいをどう克服していくかが課題である。 ・（中高一貫全体を通して）成果が具体的に示されており、課題ともによくわかる。
		②学校説明会等を通して、本校の目指す中高一貫教育を十分に伝えられたか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・説明会や懇談会に大勢参加するなど、取組は十分評価できる。新たに作成するDVD等も活用してもらいたい。（中学生の学校生活の様子など。） ・実際の活動を公開し、継続して伝えていくことが大事である。
		③入学者選抜の計画・実施が確実に行われたか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・無事終わることができ、達成度3は、少々厳しいのではないか。
自主・自立性に基づく“清陵生としての自覚”を高める指導	①学友会の諸機関と協議して、生徒に自ら考えさせる指導 ②学校生活におけるモラルの向上 ③生徒・職員が共に互いの人格を認め合う学校づくり	①学校生活の様々な場面において適切な指導ができたか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜、全校生徒に注意を喚起するなど、評価できる。 ・交通マナーは問題が残る。中学生の手本となるような高校生の姿勢と意識の転換のための指導が必要である。
		②学友会へ効果的な指導助言ができたか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・文化生活委員会への積極的助言など、自治活動の活性化を図りたい。
		③生徒の自主・自立性を尊重した指導ができたか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・自主・自立性の涵養は、校風の柱であり、様々な場面での助言に努めたい。 ・何か不足を感じる。
学友会の自主的活動支援とクラブ活動の活性化	①顧問の適切な指導 ②活動の保障 ③各委員会の活性化	①学友会活動を自主的に推進するための指導ができたか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・文化生活委員会を発足させ、自治精神の具現化に努めたことは評価できる。 ・文化生活委員会をより充実させていってほしい。
		②クラブ活動の時間、場所を保障し適切な指導ができたか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教科の学習と両立を図りながら、実績も出ていることは評価できる。顧問のご努力に深く感謝。 ・学習との両立について更に適切な助言や指導を考えていってほしい。
		③役員以外の委員も機能する組織体制を構築できたか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・一般委員の活動の活性化が図られるよう役員会等への働きかけなど評価できる。 ・分担して任せることにより、やった本人に達成感と自信が付くのでよい案だと思う。
広報活動の充実	①ウェブサイトの充実と校内運営体制の整備、広報誌「清水ヶ丘便り」の充実、学校案内ビデオ・パンフレット作成、中学校訪問 ②授業公開日の適切な設定	①ウェブサイト、「清水ヶ丘便り」等は充実していたか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・改善策として挙げられる二点について、評価できる。 ・成果が何かわからない。
		②本校の教育活動を保護者、中学校、地域住民等に十分に伝えられたか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校紹介DVDの更新は具体化したい。 ・附属中学校への関心がさらに高まる情報発信を工夫してほしい。